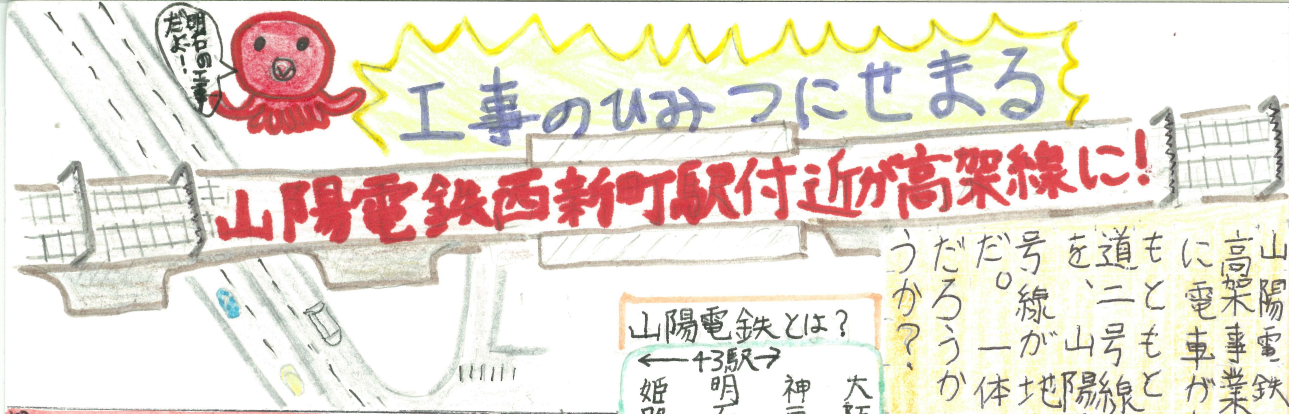
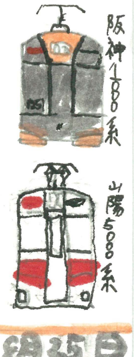


工事のひみつにせまる

山陽電鉄西新町駅付近が高架線に！

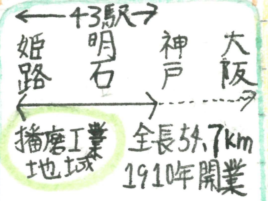
SEASIDE EXPRESS
シーサイドエクスプレス
新聞



平成27年9月25日
松元亮太

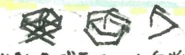
山陽電鉄は明石市の西新町付近で高架事業を行っている。今年六月に電車が高架線を走行し始めた。もともと地平を走る山陽電鉄を国道二号線が跨線橋でまたいでたのを、山陽電鉄が高架化し、国道二号線が地平を走るようになったのだ。一体どうやって工事をしたのだろうか？難しくなかったのだろうか？、そのひみつにせまった。

山陽電鉄とは？



姫路と神戸を結ぶ。関西の準大手私鉄

神戸からは阪神近鉄阪急とつながり通勤鉄道として、播磨工業地域の都市間輸送として活やくしている。

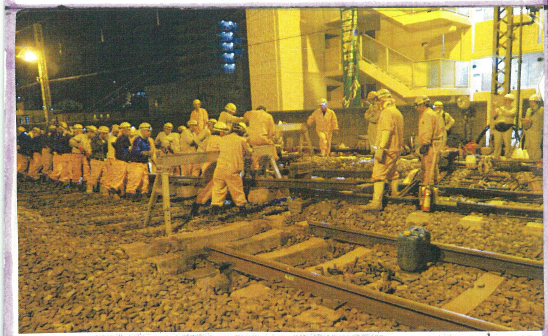


パンタグラフの種類

事業の内容

明石市内では車が多い割に道が狭く踏切周辺でよく渋滞が起こっていた。そのため、約40年前から高架化が計画された。兵庫県、明石市、山陽電鉄による都市計画事業で、約38kmを連続立体交差化するものだ。平成六年度に第一期完了。現在、19kmの第二期工事が完了しつつある。工事区間は、328本の電車が走り約五万人が利用。周辺道路も一日三万台が走る重要な道路で、車も電車もとめずに安全に工事を行う必要があった。山陽電鉄鉄道技術部の北嶋様にお話を伺った。

切換のとき、減便はなかったか？

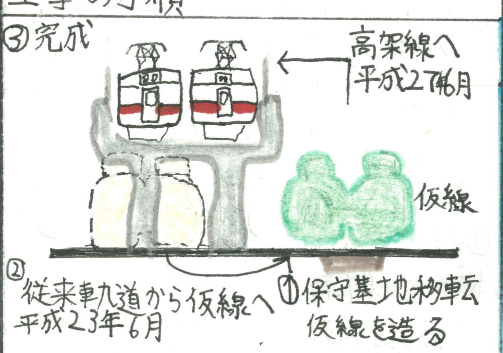


減便は一切なく、最終電車の後、始発列車の前に試運転を二回するまで約四百名が切換を行った。レールの取り換えの他、電線、駅の自動券売機、自動改札機の移動をし、不要となった踏切に柵をするなど一晩で完了した。

仮の線路を造ったわけは？

線路があった場所に高架を造るので移動の必要があった。また、仮の線路を造るために、それまで横にあった保守基地を三つ西の駅に移転させる必要もあった。

工事の手順



なぜ高架化？

今回九個の踏切がなくなった。踏切により分断されていた地域が一体化され、周辺住民のくらしが便利になる。また、踏切遮断による交通渋滞、踏切事故をなくすことができる。

一番難工事だったのは？

国道二号線と交差するところだ。国道二号線は高さが低く下の仮線の上を電車が通過することができず、別の場所に鉄の高架を造った。明石川の工事。川の工事は雨の少ない渇水期(十一～五月)しかできず、四回にわけて工事をしたため、三年かかった。

工事期間の安全対策は？

仮線の踏切のそばの交差点で渋滞や混乱が予想されたので、十四名のガードマンをおいて、交通整理、警備にあたった。

山陽、阪神、近鉄で、梅田、奈良名古屋、伊勢志摩まで行けるよ！　大ネットワーク

感想

高架化された日から[illegible]現場を[illegible]くな[illegible]車が[illegible]切事[illegible]たの[illegible]して[illegible]住民[illegible]適に[illegible]今、[illegible]道の[illegible]つつある。これは工事のためだけに造られたものだ。多くの時間とお金がかかったが、それだけの価値があった。安全に工事を行い、くらしが不便にならないようにするため、大切な役割を果たしたのだ。これだけの工事を安全にやりとげたのは、工事の計画やプロセスが素晴らしかったからだと思う。ご協力いただいた北嶋様どうもありがとうございました。